			団体情報					事業情報			
制度	事業年度	No.	団体名	代表者名	（代表者略歴）	設立年月日	Link	事業名	目的	目標	事業内容
	2018	1	任意団体 With you Japan	佐藤　琢磨	2002年にF1デビューし、2004年アメリカグランプリにて表彰台に上がる。 2010年からはインディカー・シリーズにチャレンジし、2013年ロングビーチグランプリにて日本人初優勝を成し遂げ、世界最高峰のレースと言われるF1とインディカー両方で表彰台に上がった唯一の日本人ドライバーとなる。更に2017年は世界三大レースの1つと言われるインディ500での優勝を果たした。またオフシーズンでは自身で立ち上げた「With you Japan」プロジェクトとして2011年から復興地支援を毎年続けて活動。昨今では復興地支援と合わせて子供たちにカートの楽しさを伝えるキッズカートイベントを開催。	2018年4月1日	http://www.withyoujapan.org/ja/	With Tou Japan Festa2018 ～No Attack No Chance 夢を持ち続けよう～	普段は体験できないスポーツに、チャレンジすることで、被災した子どもたちに、「チャレンジ精神」の大切さを伝えることを目的にしている。また震災の風化を防ぎ、継続的な支援や、災害への備えの重要性も啓発する。	自分の夢へ一歩踏みことを後押しするきっかけとなることを目標とし、また、東北の子どもたちのパフォーマンスの発表のステージや、復興を支える若い力を育てるためのワークショップも開催するなど、東北の若者の成長を応援することを目標とする。	東日本大震災で被災した子どもたちを楽天球場に無償で招待し、代表の佐藤琢磨のスポーツであるカーレース（カート）をはじめ、ラートやストラーダーといった特別な道具を使うスポーツ（＝普段は出来ないスポーツ）に挑戦するイベント
		2	任意団体 キッズスポーツキャンプ連盟	東原　邦明	外資系広告代理店で勤務の後、east field㈱を設立。代表取締役に就任	2019年1月1日		キッズスポーツキャンプの開催	小学校高学年という、運動能力的にも知力的にも大きく伸びる多感な時期の子どもを集め、1泊2日の共同生活を通じて、礼節や社会の課題、そして多様性を学ぶことを目的とする。	多感な子どもたちを対象に、スポーツの力を活かすことで、運動神経の発達向上、共同生活を通じたコミュニケーション能力や自立心の向上、そして礼節、多様性、社会課題を学ぶことを目標とする。	日本財団HEROsアンバサダーの井上康生氏と五郎丸歩氏が主催。多感な小学校高学年世代の子どもたちが、礼節や、多様性、社会課題などを学ぶキャンプを開催するもの。
		3	特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan	北野華子	慶應義塾大学環境情報学部卒業 ー京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻（MPH）課程修了 ーSpingfield College大学院 スポーツマネジメント・レクリエーション学科（修士課程）修了	2016年2月23 特定非営利活動法人Being ALIVE Japan 法人化		長期療養を必要とする子どもへのスポーツ支援の拡大	長期療養のこどもたちに最高のこども時代「青春」を実現するTEAMを日本全国につくること	アスリートやスポーツチーム、スポーツ団体と協働したファンドレージングの企画と仕組みをつくることで、全国的に事業展開できる運営体制を整えることを目標とする。	（特)Being ALIVE Japanは、長期療養を必要とする子ども向けのスポーツプログラムを病院や学校の中で提供している。また、スポーツチームの一員として入団し、定期的に練習や試合活動に参加するTEAMMATESといった活動も実施している。 本事業は、継続的に活動を実施するうえで必要なスポンサーシップの獲得、ホームページでの寄付者獲得のための寄付システム構築、ファンドレージングイベントの開催を行うものである。
		4	一般社団法人 レッズランド	立花　洋一	1982年4月 三菱重工業株式会社 入社 原動機事業本部 原動機業務部 業務課 2009年4月～ ニチユMHIフォークリフト株式会社へ休職派遣 2011年8月 同社 常務取締役 就任 2013年4月 三菱重工業株式会社 グローバル戦略本部 国内法人営業室 室長 2016年4月 同社 マーケティング＆イノベーション本部 グループマーケティング2部 部長 2016年11月 浦和レッドダイヤモンズ株式会社 非常勤取締役 就任(ダイヤモンドF.C.パートナーズ株式会社より) 2018年2月 浦和レッドダイヤモンズ株式会社 取締役副社長 就任	2017年2月1日	http://www.redsland.jp/	ハートフルサッカーinアジア 2019　タイ(チェンマイ・バンコ ク)	タイ・チェンマイにあるHIVに母子感染した孤児たちの生活施設「バーンロムサイ」にて、地域から差別を受け孤立している子どもたちのサッカーチームを設立。社会的に苦しい立場にある子どもたちに対しスポーツの力を活用し地域との接点をつくることで、インクルーシブ社会の理解を図ることを目的とする。	活動を継続的に実施することで、施設に対するさらなる理解促進を図ることを目標とする。また、新たな拠点として、児童養護施設や小学校においても同様な活動を行うことで、スポーツを通してこころの教育やチームワークづくりの大切さと伝えるとともに、社会的に苦しい立場にある子どもたちへの理解促進につながる場所を開拓することで活動を広げていく。	タイ・チェンマイにあるHIVに母子感染した孤児たちの生活施設「バーンロムサイ」にて、地域から差別を受け孤立している子どもたちのサッカーチームを設立
		1	一般社団法人 ATHLETE SAVE JAPAN	飯沼　誠司	2006年「館山サーフクラブ」を設立 1997～2001年ライフセービング全日本選手権５連覇 2010年ライフセービング世界大会準優勝　同年ライフセーバーオブザイヤー受賞 2012/2014年　ライフセービングユース日本代表監督 2014/2016年　ライフセービング日本代表監督 2015年　一般社団法人ATHLETE SAVE JAPAN（アスリートセーブジャパン）設立（代表理事） 2016年　一般財団法人日本ＡＥＤ財団理事 2017年　国立大学法人鹿屋体育大学オリンピック・パラリンピック戦略アドバイザー就任	2015年9月27日	http://athlete-save.jp/	ASJいのちの教室＆スポーツ体験	アスリートによりAEDの使い方・胸骨圧迫の方法を伝える「いのちの教室」の実施をすることで「一次救命の知識と技術」、「いのちの大切さ」を子どもたちに伝える。また、スポーツ中の事故や事故防止に向けたアクション事例をアーカイブし、同じ事故を繰り返さないよう啓発することで、スポーツの安全な環境づくりに貢献し、安全な環境下でスポーツの楽しさ・素晴らしさを伝えることを目的とする。	AEDの普及及び「いのちの教室」の更なる認知・拡大を目指し、これまでに実施したことがない地域でモデル授業を開催することで、活動の拡大を目指す	アスリートが講師となって生徒にAEDや心肺蘇生術を伝え、いざという時に対処ができる「勇気」と「技術」を伝える「いのちの教室」を行うもの。

		2	一般社団法人 てとり	谷山　大三郎	2006年千葉大学教育学部を卒業し、2008年千葉大学大学院教育学研究科修了。株式会社リクルートに勤務し、2015年からはNPO法人企業教育研究会の経営企画部部長及び千葉大学教育学部附属教員養成開発センター特別研究員、千葉大学教育学部非常勤講師及びストップイットジャパン（株）代表取締役を務める。現職を通じて「いじめ問題の解決」「企業と連携した授業づくり」の開発及び実践を行っている	2019年2月19日	なし	トップアスリート×トップアーティストによる 自分/仲間へのSOS推進プロジェクト	スマートフォンを持っていない子どもを含めたいじめ等に苦しんでいるすべての子どもたち、そして仲間を助けたいと思っているすべての子どもたちのために、「自分を助けること、人を助けることが当たり前となる」社会をつくることを目的とする。	ロールモデルとなりえる大人が相談をして困難を乗り越えた事例を子どもたちに伝える ・トップアスリートとトップアーティストの力を組み合わせ、日本全体への子どもとその周りにいる大人にメッセージを届ける ・SOSの出し方教育*が全国の学校で実践され、SC等相談員との相談きっかけを増やす ・トップアスリートからの発信をムーブメントのきっかけと捉え、各自治体でのリアルな研究会、啓発イベントの実施にまでつなげ、実効性のあるかつ持続可能な取り組みを行う	日本財団HEROsアンバサダーである松井秀喜氏のアイデアと全面的な協力を受けて実施するもの。本事業は、トップアスリートが、自らの挫折体験をどのように乗り越えたか、といったインタビューの実施、動画の制作を行い広く拡散ものである。
		3	任意団体 With you Japan	佐藤　琢磨	学生時代の自転車競技から一転、20歳でレーシングスクールに入り、モータスポーツの世界へ。2002年にF1デビューし、2004年アメリカグランプリにて表彰台に上がる。2010年からはインディカー・シリーズにチャレンジし、2013年ロングビーチグランプリにて日本人初優勝を成し遂げ、世界最高峰のレースと言われるF1とインディカー両方で表彰台に上がった唯一の日本人ドライバーとなる。更に2017年は世界三大レースの1つと言われるインディ500での優勝を果たした。またオフシーズンでは自身で立ち上げた「With you Japan」プロジェクトとして2011年から復興地支援を毎年続けて活動。昨今では復興地支援と合わせて子供たちにカートの楽しさを伝えるキッズカートイベントを開催。	2018年4月1日	http://www.withyoujapan.org/ja/	With Tou Japan Festa2019 ～No Attack No Chance 夢を持ち続けよう～	佐藤琢磨のレースにおける考え方「No Attack, No　Chance」から得た、「夢を持ち続け、夢に向かって一生懸命続けていれば必ずいい結果がやってくる」という経験を被災した子どもたちに伝え、夢の実現をサポートすることを目指し、傷ついた子どもたちに「夢を持ち、挑戦する心」を養うことを目的としている	憧れのアスリートである佐藤琢磨と一緒に新しいスポーツに挑戦することで、被災した子どもたちが、自分の夢へ一歩踏みことを後押しするきっかけとすることを目標としている。 そのほか、東北の子どもたちのパフォーマンスの発表のステージや、復興を支える若い力を育てるためのワークショップを開催するなど、東北の子どもたちや若者の挑戦を応援することを目標としている。 震災の風化を防ぎ、継続的な支援や、災害への備えも啓発する。	With You Japan Festaは、東日本大震災で被災した子どもたちを楽天球場に無償で招待し、代表の佐藤琢磨のスポーツであるカーレース（カート）をはじめ、ラートやストライダーといった特別な道具を使うスポーツ（＝普段は出来ないスポーツ）に挑戦するイベントを行うもの。
		4	一般社団法人 なでしこケア	大滝　麻未	2019年一般社団法人なでしこケアを設立 現役女子サッカー選手（元日本代表：なでしこジャパン通算3試合出場0得点） 2012年　早稲田大学スポーツ科学部卒業、フランスリーグ・オリンピックリヨン加入 2013年　浦和レッズレディース加入 2014年　フランスリーグ・EADギャンガン加入 2015年　一度現役引退 2017年　FIFA運営の大学院FIFAマスター卒業後現役復帰。フランスリーグ・パリFC加入 2018年　ニッパツ横浜FCシーガルズ加入 2019年　ジェフユナイテッド市原・千葉レディーズ加入	2019年7月8日		「なでしこ」による女性・若者の支援の推進	現役女子サッカー選手 に対して、選手としての影響力を生かして社会に貢献することの重要性を教育するとともに、そうした選手とともに具体的な社会貢献活動を実践することによって、さらに、その影響力と自覚を促し、もって女子サッカー選手全体にそうした意識を広め、さらなる社会貢献活動の拡大につなげる好循環を生み出すことを目的とする	全国の少女サッカーチームを訪問し、少女選手とのワークショップなどを行うことによって、女子サッカーの価値、女子サッカー選手としての価値をともに考え、ロールモデルとしての女子サッカー選手のあり方を共有し、社会に貢献できる次世代の女子サッカー選手を生み出していくことに貢献する。「公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を」との協力のもと、現役選手による、難病の子どもたちのいる病院訪問を行うとともに、難病の子どもを支えるお母様たちとふれあうイベントを行うことによって、人々と共感しあい、勇気を与え合い、仲間として手を差し延べ合えるような関係を築ける女子サッカー選手を多く生み出していくことに貢献することを目標とする。	女子サッカー選手向けの勉強会の開催や、少女サッカーチームでのワークショップ、難病の子どもを抱える「母親」の支援を行うもの。
	2019	5	特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド	有森　裕子	日本体育大学卒業。株式会社リクルート入社。 バルセロナオリンピック，アトランタオリンピックの女子マラソンでは銀メダル，銅メダルを獲得。2007年，日本初の大規模市民マラソン「東京マラソン2007」でプロマラソンランナーを引退。 国際オリンピック委員会（IOC）スポーツと活動的社会委員会委員，日本陸上競技連盟理事，スペシャルオリンピックス日本理事長，大学スポーツ協会（UNIVAS）副会長。他これまで，国際陸連（IAAF）女性委員会委員，国連人口基金親善大使，笹川スポーツ財団評議員，社会貢献支援財団評議員等の要職歴任。 2010年，国際オリンピック委員会(IOC)女性スポーツ賞を日本人として初めて受賞。同，カンボジア王国ノロドム・シハモニ国王陛下よりロイヤル・モニサラボン勲章大十字を受章。	1998年10月10日	https://www.hofg.org/	開発途上国における保健・体育教育の推進	開発途上国の子どもたちの健やかな体と豊かな心の育成を目的	当該小学校がモデルとなり、教員、児童や保護者らが、体の発達や健康について知り、学ぶことにより、保健体育科教育の推進につなげることを目指す。	カンボジアでの保健体育教育の推進をめざし、健康手帳の企画・作成と効果的に活用するためのワークショップを継続的に実施するもの
		6	特定非営利活動法人 D-SHiPS32	上原　大祐	2001年　アイススレッジホッケー開始（大学2年生） 2006年　トリノ・パラリンピック大会　5位 2009年　CANADA CUP（ﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰ冬季ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸﾃｽﾄ大会）　3位 2010年　バンクーバー・パラリンピック　2位　銀メダル 2014年　NPO法人　D-SHiPS32　理事長 2012年　フィラデルフィアフライヤーズ所属（アメリカ） 2016年　NEC　オリンピックパラリンピック推進本部　障がい攻略エキスパート 一般社団法人障害攻略課　代表理事 2018年　ピョンチャンパラリンピック　8位	2014年12月	http://dships32.com/	「車いすスポGOMI」実施による インクルーシブ教育	障がい者の視点を知り、地域のバリアを知り、「サポートの方法を知る」ことで、助け合いのアクションが生まれることを目的としている。また、ごみ拾いという要素と、スポーツの楽しさを加えることで、老若男女関係なく、多くの方に参加をして頂き“車いす×スポーツ×ゴミ拾い”を通して、街を知り障害者視点を知ることで共生社会の第一歩に気付き、共生社会を築くことを目的とする。	車いすスポGOMIの地域モデルを確立することで、全国に広げるモデルとすることを目標とする。	車イスに乗って行うごみ拾いを、チーム対抗で行う。勝敗は集めたごみの量だけでなく、見つけたバリアの数、バリアの改善策の提示などを点数化して競う。また同日開催する車いす講習会で、車いすユーザーのサポート方法などユニバーサルマナーを学びもの。

		7	一般社団法人 福島県水泳連盟	壱岐 ひろみ	福島市出身。福島女子高卒業(現橋高校)。 福島県水泳連盟で会計、理事、県北水泳連盟会長、県水泳連盟副会長を経て 平成24年に会長に就任。	2014年4月1日	www.fukushima-swim.org	萩原智子杯水泳競技大会の開催	東日本大震災により大きな影響を受けた子どもたちに水泳を通して、体を動かすことの素晴らしさや目標を持つことの大切さを伝え、子どもたちの夢につなげる場を作ることを目的とする。	水泳の競技力の向上、水泳の普及を図るだけでなく、年齢性別問わず、少しでも運動に興味を持ち、スポーツを通して、笑顔を増やすことを目標とする。	HERO s アンバサダーの萩原智子氏が実施。 被災地の子ども達に運動機会の提供と競泳向上も目指す水泳大会をおこなうもの。
		8	一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟	北澤　豪	中学時代は読売サッカークラブ・ジュニアユースに所属。修徳高校卒業後、本田技研工業株式会社に入社海外へのサッカー留学・日本代表初選出を経て、読売クラブ（現　東京ヴェルディ）へ。日本代表としても多数の国際試合で活躍した。 公益財団法人日本サッカー協会　理事／フットサル委員会　委員長 一般財団法人日本フットサル連盟　副会長 一般社団法人日本女子サッカーリーグ　理事 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟　会長	2016年4月1日	https://www.jiff.football/	サッカーを通じたインクルーシブ社会の実現	障がい児・者と健常者が混ざり合うインクルーシブな場作りを通じて、共生社会の推進に寄与することを目的とする。	JFA関連団体である日本障がい者サッカー連盟がハブとなることで、地域におけるサッカー界のリソースを最大限活用し、障がい者サッカーの活動およびダイバーシティ＆インクルージョンを推進すること。またインクルーシブ教育プログラムの実施を通じて健常の子ども達向けに障がい者理解を促進することを目標とする。	「インクルーシブフットボールフェスタ」は、障がいの有無、性別、年齢を超えて行うサッカーイベントを行うもの。これまで東京と広島で実施し高い評価を得ているが、本事業により新たに１道１県で実施するもの。開催を通じて本事業の価値を地域に伝え、企業など支援者の獲得につなげることで継続的な開催を目指すもの。
		9	特定非営利活動法人 D-SHiPS32	上原　大祐	2001年　アイススレッジホッケー開始（大学2年生） 2006年　トリノ・パラリンピック大会　5位 2009年　CANADA CUP（ﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰ冬季ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸﾃｽﾄ大会）　3位 2010年　バンクーバー・パラリンピック　2位　銀メダル 2014年　NPO法人　D-SHiPS32　理事長 2012年　フィラデルフィアフライヤーズ所属（アメリカ） 2016年　NEC　オリンピックパラリンピック推進本部　障がい攻略エキスパート 一般社団法人障害攻略課　代表理事 2018年　ピョンチャンパラリンピック　8位	2014年12月	http://dships32.com/	パラスポーツを気軽に体験できる車いすレンタル事業（カリスポ）	子どもの体のサイズに合ったスポーツ用車いすを安価に一定期間（3ヶ月単位）貸し出すことで、障がい児がスポーツを始めるきかっけを作ることを目的とする。	初年度は本団体が現在所有している車いす10台に、今回整備する子供用サイズのスポーツ用車いすを10台追加し貸し出しを開始すると共に、潜在的な貸し出しニーズを取りまとめ他の業者の参入や、自治体・スポーツ施設等での整備を促進することを目指すもの。	HEROsアンバサダーである上原大祐氏が実施。 スポーツ用車いすは高価（25万円～）であり、障がい児が車いすスポーツに興味を持ち、体験するための初めの一歩を踏み出すには、経済的なハードルが高い。そこで、スポーツ用車いすレンタル事業「カリスポ」の実施を行うもの。
スタンダード		1	一般社団法人 Sport For Smile	梶川　三枝	2010年7月、スポーツのチカラをよりよい社会づくりに役立てることをミッションとし、株式会社 Cheer Blossomを設立、Sport For Smile の企画運営事業とともに、スポーツの社会的責任に関するコンサルティング・サービスを提供。国連事務総長付スポーツ特別顧問や世界経済フォーラムのスポーツアジェンダ諮問委員会委員、アショカフェロー等を招聘してのセッションや世銀総会公式サイドイベント等を実施する一方、「誰もが誰かのチカラになれる」を体現する場としての多彩なスポーツ関連イベントを展開。また 2018年W杯ロシア大会連動企画として、FIFA公式NGOパートナーからの助成で若者支援プロジェクトも実施	2018年6月8日	https://www.sport4smile.com/	スポーツメンタリングの実施	ドメスティックバイオレンスの被害経験のある小学生が、スポーツメンタリングの手法を使った半年間の体験を通して、「笑顔」と「人を信じる力」を取り戻すことを目的とする。	本事業では、参加児童の心のケアをすすめるだけでなく、児童の保護者（多くが子どもと共にDV被害を受けた母親）へのサポートや、大学生メンター、ボランティアスタッフの成長とやりがいのレベルを上げることに注力し、本活動による成果と継続性を拡大していくことを目標とする。	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害経験を持つ小学生が、メンターとなる大学生と１対１の関係性を構築し進める「メタリング」という手法を用いた、半年間のスポーツ交流を行うもの。
		2	特定非営利活動法人 ユアアクション	巻　誠一郎	サッカー元日本代表	2017年7月20日	http://youraction.or.jp/	熊本ジュニア「夢」プロジェクト	被災をうけた熊本県が元に戻るのを目指すのではなく、弱い立場の方々、子どもたちが、夢を持ってより良い熊本を作っていける環境を整えていくことを目的とする。	サッカー経験や性別、障がいの有無を問わず、子どもたちが自主的にサッカーチームを運営するなかで「成長したい」「本気で夢を叶えたい」という気持ちを引き出す。キャリア教育、ダイバーシティの専門家、栄養士、メンタリングコーチなど他分野の専門家も活用し、ジュニアスポーツの新しい価値を創造することを目標とする。	本事業は、巻氏がサッカー日本代表と被災地支援の経験と、他の分野の専門家の力を連携させることで、スポーツの持つ「人間形成力」に特化した1年間のサッカーチームを運営するもの。サッカー経験や性別、障がいの有無を問わず、子どもたちの「成長したい」「本気で夢を叶えたい」という気持ちを引き出すことを目指し、キャリア教育、栄養士、メンタリングコーチなど他分野の専門家と連携した1年間のプログラムを行うものである。

	2020	3	特定非営利活動法人 D-SHiPS32	上原　大祐	2001年　アイススレッジホッケー開始（大学2年生） 2006年　トリノ・パラリンピック大会　5位 2009年　CANADA CUP（ﾊﾞﾝｸｰﾊﾞｰ冬季ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸﾃｽﾄ大会）　3位 2010年　バンクーバー・パラリンピック　2位　銀メダル 2014年　NPO法人　D-SHiPS32　理事長 2012年　フィラデルフィアフライヤーズ所属（アメリカ） 2016年　NEC　オリンピックパラリンピック推進本部　障がい攻略エキスパート 一般社団法人障害攻略課　代表理事 2018年　ピョンチャンパラリンピック　8位	2014年12月	http://dships32.com/	再入荷未定ショップ	本事業は、優れている商品にも関わらず市場に埋もれがちな福祉施設等が製造する商品を発掘し、商品の購入を通してその価値を一般に体感してもらうことで、商品価値を向上させることを目的とする。	本事業の立ち上げに必要な「再入荷未定ショップ」ウェブサイトの構築および必要物品の調達を目標とする。	福祉施設等で製造される商品の中にも大変優れているものがあるにも関わらず価値が見出されていない現状がある。この課題に対し、団体は「再入荷未定ショップ」を開設することで、優れている商品に対して適正な価値が与えられるようブランディングをする。商品の「安定供給」が当たり前な現在、「不安定供給」だからこそ見出せる商品の希少価値を見出し、優れている商品への適正な価値を確立する。また、商品の希少価値が高いからこそ感じることができる、製造者に対する感謝やモノへの愛着心を社会に提示していくもの。
		4	任意団体 ハギトモスマイルプロジェクト	萩原智子	シドニー五輪競泳日本代表 日本水泳連盟理事 東京オリンピック・パラリンピック競技大会アスリート委員 日本体操協会改革推進担当理事	令和2年4月1日		萩原智子杯水泳競技大会 （山梨大会）	全国でも障がい者が出場できる公式の水泳大会が限られている中、本事業では、障がいをもつ子どもたちへ公認記録を計ることのできる水泳大会を提供するとともに、健常者も混じりあった大会にすることで相互理解を促し共生社会の実現を目的とする。	公認記録を計れる本大会を通して、障がいをもつ子どもたちへ自己ベストに挑戦してもらいチャレンジ精神を養ってもらうとともに、障がい者と健常者の相互理解を目標とする。	障がい者が出場できる公式の水泳大会は限られている。この課題に対し、団体は公認記録会として、障がい者と健常者が参加できる「萩原智子水泳競技大会」を開催す
		5	一般社団法人 T-FIVE VOLLEY BALL	山本隆弘	• 1997年　日本体育大学　入学 • 2000年　日本代表　初選出 • 2001年　松下電器産業　入社（パナソニック・パンサーズ） • 2003年　ワールドカップ　出場　MVP獲得 • 2004年　プロ転向（国内チーム初の男子プロ契約選手） • 2008年　北京オリンピック　出場 • 2013年　現役引退 • 2019年　一般社団法人T-FIVE VOLLEYBALL設立（代表理事就任）	2019年6月3日	http://t-five.or.jp/top_2020_tfive/	T-FIVE CUP東北大会の開催	T-FIVE CUPは「未来のある子供たちに夢ある大会を！」をモットーに2014年より全国9地区計10大会のバレーボール大会を実施している。 本大会は、9地区の中でも東日本大震災で被災した東北地方の子どもを招待し、バレーボール大会を通じて夢と希望を与えることを目的とする。	被災した方とその子どもたちに元気を与える大会を提供するとともに、被災を経験した大人たちにも子どもたちがプレーする姿を届けることで、復興を後押しする。	毎年全国で開催しているT-FIVE CUPのうち、東日本大震災で被災した子どもたちを招待した大会として実施するもの
		6	特定非営利活動法人 deleteC	小国　士朗	2003年NHK（日本放送協会）入局 2018年NHK（日本放送協会）退局 同年　一般社団法人「注文をまちがえる料理店」理事就任 同年　株式会社小国士郎事務所設立　代表取締役就任 2019年　特定非営利活動法人deleteC　代表理事就任	2019年9月5日	https://www.delete-c.com/	deleteC HOPEオークション2021	がん治療研究に対する一般の認知が低い中、本事業は、誰もが気軽にがん治療研究を応援できる場を提供し、一般におけるがん治療研究支援に対するハードルを下げることを目的とする。	本事業を通して、一般のがん治療研究に対する関心を醸成し、オークションで300万円の売上（平均単価10万円×30点）を集めることを目標とする。	アスリートのサイン入りグッズのオークション企画であり、オークションの売上は2022年度にがん治療研究者に寄付されるもの
		7	任意団体 ハギトモスマイルプロジェクト	萩原智子	シドニー五輪競泳日本代表 日本水泳連盟理事 東京オリンピック・パラリンピック競技大会アスリート委員 日本体操協会改革推進担当理事	2020年4月1日		萩原智子杯水泳競技大会 （春日井大会）	愛知県の各地域の代表として大会に参加し、子ども達自身に自分の暮らす地域の魅力等を発表させることで、ふるさとに愛着や誇りを持つことにつながり、地域創生を推進することを目的とする。	大会に参加し、さらに自己ベストを更新したいという子ども達のチャレンジ精神を育むとともに、愛知県の代表、さらには日本の代表として水泳に携わる選手を輩出することを目標とする。	本事業は、水泳を通してスポーツの楽しさを伝え、地元の子ども達に愛着をもってもらい、競泳向上も目指す水泳大会を行うものである。

		8	任意団体 ハギトモスマイルプロジェクト	萩原智子	シドニー五輪競泳日本代表 日本水泳連盟理事 東京オリンピック・パラリンピック競技大会アスリート委員 日本体操協会改革推進担当理事	2020年4月1日		萩原智子杯水泳大会 （福島大会）	東日本大震災で被災した子ども達に水泳というスポーツを通して、目標や夢を持つことの大切さや、子ども達の笑顔を増やすことを目的とする。	本大会を通じて、水泳に興味がなかった子ども達にも興味が生まれ、子ども達の目標となる大会を目指すことで、第二のオリンピック選手が生まれるような大会にすることを目標とする。	本事業は、被災地の子ども達に水泳を通してスポーツの楽しさ、夢や目標をもつことの大切さを伝え、水泳を含めたスポーツに取り組む子どもを増やすために実施する水泳大会である。
	2021	1	特定非営利活動法人 Being ALIVE Japan	北野　華子	慶應義塾大学環境情報学部卒業、京都大学大学医学研究科社会健康医学専攻（公衆衛生学）修了。米国に留学し、病児・障害児のスポーツ・レクレーション活動の企画・運営、及び長期療養のこどもとご家族の心理社会的な支援をする専門資格を取得。帰国後、埼玉県立小児医療研究センターにチャイルドライフスペシャリストとして勤務しながら、現在の活動とNPOを立ち上げる。2017年7月より専属職員として勤務し、活動企画・運営に従事する。	2016年2月 NPO法人化 (2009年4月～2016年2月まで任意団体として活動)	http://www.beingalivejapan.org	TRYMATES～ラガーマンによるコロナ禍で入院治療中のこどもの支援活動～	長期療養中の子どもたちと、「ひと」や「社会」との接点を作るオンライン事業を実施することで、ゴールが見えづらい長い治療生活や長期化するコロナ禍への不安を軽減することを目的としている。	小児医療現場において長期療養中の子どもたちへのオンライン支援を普及することで、彼らへの新たな支援方法を定着させることを目標とする。	本事業は、長期療養中の子どもたちがアスリート（ラグビー）とオンラインで交流する事業であり、長期療養中の子どもたちが社会との接点をつくる機会を提供するものである。本事業を継続的に実施可能にするために、新規アスリートとボランティアスタッフの確保及び育成にも取り組むものである。
		2	一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟	北澤　豪	中学時代は読売サッカークラブ・ジュニアユースに所属。修徳高校卒業後、本田技研工業株式会社に入社海外へのサッカー留学・日本代表初選出を経て、読売クラブ（現　東京ヴェルディ）へ。日本代表としても多数の国際試合で活躍した。 公益財団法人日本サッカー協会　理事／フットサル委員会　委員長 一般財団法人日本フットサル連盟　副会長 一般社団法人日本女子サッカーリーグ　理事 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟　会長	2016年4月1日	https://www.jiff.football/	障がい者サッカーにおける国際連携への取り組み	7つの障がい者サッカー団体をまとめている本団体の組織のあり方と取り組みは国際的に稀有なものである。本事業は、今後本団体が国際的な障がい者サッカーの活動にも貢献できるようになることを目的としている。	国際連携の取り組みを加速させるために必要な英語版の団体公式ウェブサイトを制作することを目標とする	オランダのパラフットボール財団との連携をきっかけに、障がい者サッカーにおける国際連携を加速させることを目的に、まずは本事業で本団体の英語版ウェブサイトを制作するものである。
		3	一般社団法人 SDGs in Sports	井本　直歩子	元競泳日本代表。1994年広島アジア大会50メートル自由形優勝。 1996年アトランタ五輪800メートルフリーリレー４位。 米サザンメソジスト大、慶應義塾大卒業。マンチェスター大学院紛争・復興支援修士号修了。 JICA平和構築企画調査員としてシエラレオネ、ルワンダに勤務後、国連児童基金（ユニセフ）教育専門官としてスリランカ、ハイチ、マリ、ギリシャ等災害・紛争地に勤務。 2019年日本財団HERO’sアワード受賞。	2021年6月24日に 団体設立予定	準備中	日本スポーツ界におけるダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）推進	あらゆる差別やハラスメントの根絶、ジェンダー平等推進を中心としたダイバーシティ＆イン クルージョン推進における効果的な政策、ガバナンス体制と環境づくりの実現を目的としている。	アスリート及びスポーツ関係者のダイバーシティ＆インクルージョン推進の重要性の認識向上及びノウハウ習得を目標とする。	元競泳日本代表の井本直歩子氏を中心に、知見、実績のある方が関わ るセミナーの開催によりSDGsやサステイナビリティに関する理解促進を行うもの。
		4	特定非営利法人 ユアアクション	巻　誠一郎	サッカー元日本代表	2017年7月20日	http://youraction.or.jp/	巻誠一郎×熊本ジュニア『夢』プロジェクト	熊本大地震及び人吉・球磨豪雨災害の支援活動を通じ、災害時には、子どもや障がいのある方など弱い立場の支援が不足する現実を見てきた。そこで、被災地がただ元の状況に戻ることを待つのではなく、これからの熊本を背負っていく子ども達が、夢を持ってより良い熊本を作っていける環境を整備することを目的とする。	本事業は、競技力の向上だけでなく、スポーツの持つ力を活かした人間形成力や非認知能力の向上、また「熊本を知る、愛する」「ダイバーシティ」などの学びを得て、子どもたちの夢の実現や夢に向かうために必要な問題定義、課題解決力を養うことを目標とする。また、他分野の専門家を活用することで、ジュニアスポーツの新しい価値を創造することも目標としている。	本事業は、子ども達の自主性を活かしたトレーニング行い、またメンタリングコーチによるキャリア教育、ダイバーシティ教育を行うことにより、子ども達の人間形成力や非認知能力を向上させるものである。

		5	一般社団法人 Sport For Smile	梶川　三枝	2010年7月、スポーツのチカラをよりよい社会づくりに役立てることをミッションとし、株式会社 Cheer Blossomを設立、Sport For Smile の企画運営事業とともに、スポーツの社会的責任に関するコンサルティング・サービスを提供。国連事務総長付スポーツ特別顧問や世界経済フォーラムのスポーツアジェンダ諮問委員会委員、アショカフェロー等を招聘してのセッションや世銀総会公式サイドイベント等を実施する一方、「誰もが誰かのチカラになれる」を体現する場としての多彩なスポーツ関連イベントを展開。また 2018年W杯ロシア大会連動企画として、FIFA公式NGOパートナーからの助成で若者支援プロジェクトも実施	2018年6月8日	https://www.sport4smile.com/	スポーツメンタリングの実施	ドメスティックバイオレンスの被害経験のある小学生（高学年）が、スポーツメンタリングの手法を使った体験を通して、「笑顔」と「人を信じる力」を取り戻すことを目的とする。	本事業では、参加児童の心のケアをすすめるだけでなく、児童の保護者（多くが子どもと共にDV被害を受けた母親）へのサポートや、大学生メンター、ボランティアスタッフの成長とやりがいのレベルを上げることに注力する。また本活動による成果をあげ、継続して事業を行うことで、複数箇所開催に向けての運営基盤を固めてくことを目標とする。	本事業は、ドメスティックバイオレンスの被害経験を持つ小学生が、メンターとなる大学生とペアになり、スポーツ活動を通じてお互いへの信頼関係を築く「スポーツメンタリング」という手法を用いたプログラムである。心が傷つき、子どもらしい生活ができない子どもたちに「安心して子どもでいられるひととき」を提供するものである。